

学校教育目標

根っこをのばす

《学校長の願い》 子どもが主人公の豊科南小

めざす子どもの姿 自ら思いや願いを伝え合う子ども

豊科南中学校区のめざす子ども

自己表現力を伸ばそうとする児童・生徒の育成

安曇野市のめざす子ども

「からだを動かし・頭で考え・心に感ずる」
未来を拓く たくましい 安曇野の子ども

学校づくりの方向:「ゆだねる」ことで創る「子どもが主人公の南小」

自ら学び、粘り強く追究する子ども【学びの根っこ】

○「学びの主導権を児童にゆだねる」ことで、個別最適な学びと協働的な学びの充実を図る。

- ・学校づくりを異学年教員集団で研究
- ・授業づくりを各学年で推進
- ・「学びの見通し」を教師と児童が共有し
単元全体をマネジメントする研究
- ・研究に係る情報の共有の工夫
- ・南中との相互の授業参観

○中学年への教科担任制拡充と低学年の学級担任による授業に係る研究推進

自ら友や自然、地域とつながる子ども【心の根っこ】

○友と思いや願いを伝え合い主体的に探究するピオトープでの学びを通して、自然や仲間を慈しむ心を育む。

○子どもも教師も地域へ飛び出し、地域を学び、地域で学び、地域で生きる学習の創出

○SDGsに係る学びや活動を充実させることで、「地球市民」としての自覚と責任感を育む。

自らの心身の健康に関心をもつ子ども【元気の根っこ】

○コーディネーショントレーニングを日常化することで、自分の身体への関心を高める。

- ・体育の授業で準備体操や体づくり運動としてコーディネーショントレーニングを取り入れる
- ・体力向上に向けて、自分で目標を設定し挑戦する機会を設ける
- ・歯と口の健康づくりの継続

R8
重点

- 子ども一人一人の思いや願いが活かされる授業・学校行事・学校生活
- 子ども一人一人が自ら願いや目標をもち、何度でも挑戦できる、失敗できる学校へ
- ユネスコスクールとして、SDGsに係る学びの充実と「地球市民」としての心を育む
- 子どもも教師も地域へ飛び出し、「地域を学び・地域で学び・地域で生きる学び」
- ICT機器・AIを活用した友・世界・未来とつながる学習・教育活動

児童が安心して生活し学べる学校であるために

- ◇児童支援三委員会（生徒指導委員会・特別支援委員会・登校支援委員会）による教職員共通の児童理解
- ◇個に応じた学びの場の検討 ～特別支援学級「あすなろ」での個別支援や自立活動～
- ◇集団生活に苦手意識のある児童にとっての居場所「多様な学び学習室」（相談室）
- ◇教育相談の充実・スクールカウンセラーやソーシャルワーカーなど専門家や外部機関との連携

学校教育活動の支援
学校評価

家庭

- ・生活の基盤となる安心基地
- ・「お弁当の日」の協力

コミュニティ・スクール

PTA

- ・保護者と職員の協働による
子どもの育ちを支える活動

地域（住民・社協・企業など）

- ・登下校など日常の見守り
- ・社会体験や異年齢交流

参観・おたより・HP
等による情報発信

- ・年3回の学校運営協議会による目標や子どもたちの実態の共有とよりよい育ちをめざした熟議
- ・子どもたちのよりよい育ちをめざした環境整備活動や教育支援活動（各種活動へのボランティア参加）
- ・学校が地域のハブとなり、学区内の多くの人々や団体を結びつけていくことをめざす